

国語科学習指導案

日時 平成20年 9月10日(水) 4校時
学級 3年5組(男子19名 女子18名)
指導者 盛岡市立北陵中学校 教諭 早川貴之

- 1 単元名 五 論理の展開 ―文章の論理的構成をとらえ、自分の意見を深める―
教材名 「生き物として生きる」「説得力のある文章を書こう」

2 単元について

(1) 生徒について

全体的に落ち着いた生活ができ、真剣に授業に臨もうとしている。また、自ら進んで意見や感想を書く、音読に熱心に取り組むなど国語の学習に意欲的である。

3年生における説明的文章「メディア社会を生きる」の学習では、展開に沿って内容をとらえ、本文の文章構成を参考に、身近なメディアとその問題点、メディア社会での生き方について意見文を書く学習を行った。教材文に書かれていることを読み取る学習については力をつけてきているが、問題意識を持って読むことについては課題があると思われる。

また、1学期に生徒に書かせた意見文を見ると、客観的でないものや、具体的でないものが多く見られる。説得力のある文章にするにはどうすればよいかという視点を与え、自分の文章を見直す力が必要である。

(2) 教材について

本単元は、第1学年第五単元「真実を語る」、第2学年第五単元「事実と意見」に連なる単元である。各学年の第五単元は、説明文、論説文読解の技能を身に付けるとともに、自分の意見を表現する方法を学び、書くことを通して意見の確立を目指そうとする単元となっている。

第3学年第五単元である本単元は、「生き物として生きる」という論説文と、「説得力のある文章を書こう」という2つの教材で構成されている。「生き物として生きる」では、根拠や理由に着目しながら論理の展開をとらえること、筆者の考えをもとに自分の意見を持つことをねらいとしており、学習指導要領の読むことイ「書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること」、エ「文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと」にかかわるものである。続く「説得力のある文章を書こう」は、主張や提案に説得力のある文章を書くことをねらいとしており、学習指導要領の書くことエ「自分の意見が相手に効果的に伝わるように根拠を明らかにし論理の展開を工夫して書く」にかかわるものである。

本教材「生き物として生きる」は、生物学者である筆者が、機械と同じように生き物までも思いどおりに作ろうとする考え方に歯止めをかけ、人間も生き物として生きる暮らし方を考える必要があることを説いた文章である。生きることや科学技術について平易な言葉で書かれているので大変親しみやすい。そのため、筆者の主張、根拠等を展開に沿ってとらえることが比較的容易であり、とらえた主張、根拠等の書かれ方について検討し、自分の考えを持つ学習活動にも適した教材である。

「説得力のある文章を書こう」では、説得力のある文章を書くために必要な要素とその注意点及び文章例が示されており、生徒は実際の文例で確かめながら学習することができる。読むことと書くことを密接に関連させ、意図的、計画的に指導することが可能な単元であると考えられる。

(3) 指導について

読むことと書くことを関連付けながら、次の手順で学習を進めたい。

まず、「説得力のある文章を書こう」を読み、説得力のある文章を書くための主張、根拠、提案、異なる立場への対応の4パーツを理解させたい。そのうえで、教科書にある生徒作品を取り上げ、主張、根拠、提案、異なる立場への対応にあたる部分を指摘させたい。

次に、主張、根拠、提案、異なる立場への対応の4パーツを視点にして、「生き物として生きる」を読み、書き方が曖昧と思われる部分や、具体性が足りないと思われる部分に気づかせ、説得力のある文章にするための課題や修正点を明らかにさせたい。

さらに、本単元学習前に書かせた自分の意見文を見直し、説得力のある文章を書かせていきたい。

3 単元の評価基準

【関心・意欲・態度】

論理の展開に注意して読み、自分の表現に役立てようとしている。

【読む能力】

根拠や理由に着目しながら生命や科学技術に対する筆者の論理の展開を読み取っている。

【書く能力】

教材文を参考に、意見を主張するための説得力のある文章の書き方に沿って意見文を書いている。

【言語事項】

意見文の形態や展開について正しく理解して読み書きしている。

4 指導計画（8時間扱い）

- (1) 「説得力のある文章を書こう」から、意見文を書くための4パートとその注意点を確認する。(1時間)
- (2) 「生き物として生きる」を読んで概要をとらえるとともに、疑問点や納得できない点を指摘してその理由を書く。(2時間)
- (3) 「生き物として生きる」を「機械」「生き物」「人間」の3つの部分に分けて筆者の考えを読み取る。(2時間)
- (4) 「生き物として生きる」から、意見文を書くための4パートを抜き出し、4パートの注意点到照して検証する。(1時間・本時)
- (5) 事前に書いておいた自分の意見文を、意見文を書くための4パートとその注意点到照して検証し修正する。(1時間)
- (6) 各自の意見文を読みあい、グループごとに評価する。(1時間)

5 本時の学習

(1) 学習の目標

「生き物として生きる」の主張、根拠、提案、異なる立場への対応の書かれ方について、意見文を書くための4パートをよりどころにして自分の考えを述べることができる。

(2) 指導の構想

本時は、教材文から説得力のある文章を書くための4パートを見つけ出し、それぞれの書きぶりが適切であるかどうかを検証しようとするものである。

まず、教材文全体から、主張、根拠、提案、異なる立場への対応の4パートが盛り込まれている段落を一つ一つあげさせたい。次に、疑問点や納得できない点をメモした付箋紙をそれぞれの段落に貼っていた生徒にその理由を発表させ、課題を焦点化していく。

さらに、147ページの意見文と比較読みさせることで、どのように改善できそうか意見を述べさせたい。

(3) 具体的評価基準

観点	十分に満足できる状況 A	おおむね満足できると判断できる状況 B	努力を要する生徒への支援
国語に対する関心・意欲・態度	既習事項の4パートをよりどころに検証し、自分の表現に生かそうとしている。	既習事項の4パートをよりどころに検証しようとしている。	既習事項の4パートとその注意点到照させる。
読む能力	本文中の4パートを指摘し、注意点到照して読み、具体的に改善案を述べている。	本文中の4パートを指摘し、注意点到照して読み、意見を述べている。	本文中の4パートがどこにあるかを指摘できるように文末などに注目させる。
言語事項	意見文の4パートを理解して文章を読んだり、書き換えたりしている。	意見文の4パートを理解して文章を読んでいる。	意見文の4パートの注意点到照して文章を読ませる。

(4) 展開

	学習過程	学習内容と学習活動	教師の指導・支援	◇留意点◆評価
導入 6分	既習事項確認	<p>1 「生き物として生きる」の内容をまとめて説明する。</p> <p>2 説得力のある文章の4パーツ（主張、根拠、提案、異なる立場への対応）を指摘する。</p> <p>3 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>説得力のある文章を書くための4パーツをよりどころに、本文を検証しよう。</p> </div>	<p>1 「機械」「生き物」「人間」の3部分に分けて説明させる。</p> <p>2 4パーツそれぞれのポイントについて簡単に説明させる</p> <p>3 説得力のある文章の4パーツをよりどころに「生き物として生きる」を読み、書き方について検討することを確認させる。</p>	◇紙板書に整理したものを提示する。
展開 34分	<p>課題追求</p> <p>課題解決</p>	<p>4 「生き物として生きる」の中から4パーツを見つけだしそれぞれの段落にあるか指摘する。 ○主張 16 段落 ○根拠 12・15 段落 ○提案 17 段落 ○異なる対場への対応 7~11 段落</p> <p>5 4つのパーツのそれぞれの書かれ方について検証して、課題や改善点を発表する。 ○主張：文末を書き換える。 ○根拠：客観的、具体的に。 ○提案：主張に基づいて具体的に示す。 ○異なる立場への対応：解決策や具体的提案をする。</p>	<p>4 主張、根拠、提案異なる立場への対応を見つけさせ、一つ一つ確認する。</p> <p>5 4パーツが盛り込まれている段落の1つ1つについて次の手順で検討させる。 ①付箋を貼った生徒にその理由を発表させ、課題を焦点化する。 ②147 ページの意見文と比較して読ませ改善案を述べさせる。</p>	<p>◇4パーツがあることはよい点として取り上げる。 ◆教材文から説得力のある文章を書くための4パーツを見つけ出しているか。</p> <p>◇4パーツそれぞれの注意点を説明の際の用語として認識させる。 ◆本文中の4パーツを注意点に照らして読み、意見を述べているか。</p>
終末 10分	<p>まとめ</p> <p>次時の予告</p>	<p>6 「生き物として生きる」の書き方について、自分の考えをまとめて書き発表する。</p> <p>7 次時は、事前に自分で書いた意見文を本時の方法で検討することを確認する。</p>	<p>6 4パーツの書かれ方に触れて書くように指示する。</p> <p>7 本時で学んだことを自分の作文にも生かせることに気づかせる。</p>	◆本文における4パーツの書かれ方について、課題や改善案をまとめて発表することができたか。

生き物として生きる

中村桂子

学習課題

説得力のある文章を書くための四パーツをよりどころに、本文を検証しよう。

【主張】⑩

生き物は思いどおりになるものではないと考えた方がよいようだが、生き物にまで便利さを当てはめようとするのは間違っているのではないだろうか

《批正意見》

- 文末に曖昧さが残る。
- もっとはっきり明確に主張した方が伝わる。

【根拠】⑫・⑮

安易に人間が手を加えることによって予測できない結果が生まれる危険性がある

思いどおりにするならば必ず無理が出てくる

《批正意見》

- 危険性や無理について具体的な記述があったほうがよい。

【提案】⑰

生き物として生きる暮らし方を考える必要があると思う

《批正意見》

- 生き物として生きる暮らし方の、具体的提案があれば説得力が増す。

【異なる立場への対応】⑦・⑩

トマトが一年中あればよいのと考える人がいてもおかしくはない
計画出産という考え方は重要である

子どもが欲しいのになかなか生まれたいという人を援助することも求められる

《批正意見》

- 異なる立場への対応が見つけにくい。
- 反論を具体的に述べた方がよい。